

E-DREAMS

No. 8 発行:2001.1.15 [特定非営利活動法人 イー・ドリームズ] 通信

21 世紀の幕開けは 「ボランティア国際年」から

明けましておめでとうございます。いよいよ 21 世紀、幕開けの 2001 年は、「国際ボランティア年」です。

20 世紀は、国際紛争の調停や災害救助、環境保護などの場に NGO（非政府組織）や NPO（非営利組織）が登場し、政府や企業に換わる第 3 の勢力として注目を集めてきました。日本においても、阪神淡路大震災を契機に、「ボランティア」「NPO」という言葉が社会に根付きつつあります。

NPO に法人格を与える「NPO 法」の施行から 2 年（1998 年 12 月施行）。経済企画庁がまとめた全国の認証法人数は、3841 団体になりました。（2000.12.28 現在、経済企画庁ホームページより <http://www5.cao.go.jp/98/c/19981217c-npojuri.html>）

21 世紀は、これら NPO が、様々な分野で、政府や自治体・企業・個人などと連携し、また NPO がリードしていくことによって、豊かな社会作りをしていく時代です。

e-dream-s も事業を確立し、より広く社会にアピールする力をつけていきたいと思えます。

第 4 回理事会で始まった 2001 年、本年もどうぞよろしく申し上げます。

なんで e-dream-s やるの？

代表理事 辻 荘 一

e-dream-s が朝日新聞の教育欄で取り上げられることになって、中川さん（副代表理事）と山田さん（理事）が取材を受けたときに、記者の安東さんに「どうして（e-dream-s の活動を）やるんですか？忙しいでしょう」と聞かれたらしいです。

NPO法人としての動機は定款を見れば分かるので、この質問は中川さん山田さん個人、ひいては個人としての e-dream-s の会員一人ひとりに向けられた質問ということになります。そして、動機が気になってしまうのは、NPOというものがまだまだ日本社会では一般的ではないからでしょう。

私は時間を持て余しているというわけではもちろんありません。金が欲しくないと言えばウソになるけれど、何が何でも金というわけでもない。仕事には誇りを持ち、誠実にやろうと思うけれど、自己陶酔的にのめり込んでいるわけでもない。出世したり、有名になりたいわけでもない。この世の中何とかせんとなあと思うけれど、人のため世の中のため自分のことはをなげうつほど力んでいるわけでもない。自分なんかには何もできないし、やっても無駄だと思っただけシニカルでもないし、何でもできると思うほど周りが見えないわけでもない。

言い換えれば、私はごく普通の感覚をもつごく普通の市民です。でも、e-dream-s はやるんです。

悪人でも聖人でもない普通の市民が、自分達のすべきことを自分で決め、自分のできることをできる範囲で、やる。時間や金の足りないところは情熱と頭脳と気合いで補って、やる。NPOの活動はそういうものです。そして、何かをやり遂げた後には、幾ばくかの満足感があり、ちょっとだけ成長した自分がある。そんな e-dream-s でありたいですね。

Nonprofit Leaders の条件：社会起業家

顧問 井川 好二

21世紀の幕開けが、いやにあっけなく、新しい時代の始まりと云う実感が乏しいのは、こっちの readiness の問題なのかも知れない。気持ちを新たに、根性も更に太く、e-dream-s を発進させなければと考える時、新しい知識を求めるのも一考であろう。

特に、NPO としてリーダーシップの開発が急務である。「企業は人なり」と云うが、「NPO もまた人なり」だからである。

ソフト化経済センターの町田洋次が、最近の著書¹で「社会起業家(Social Entrepreneur)」と云う言葉を紹介している。ちょっと耳慣れない言葉だが、町田によると、社会起業家とは、

「医療、福祉、教育、環境、文化などの社会サービスを事業として行う人たち」である。単に社会的使命を持った事業を起業するだけでなく、行き詰まった社会事業を活性化したり、また非営利組織をプロとして経営するなど、その活動はさまざまである。(p. 18)

ニューエコノミーを牽引する「ネット起業家」と云う表現は、前世紀の終盤から頻りにマスコミに取り上げられている。アメリカの amazon.com や yahoo などが有名で、お世話になることも多い。日本でも、同様の B to C、つまり、Business to Consumers、つまり、企業と消費者を結ぶネットビジネスが、雨後のタケノコのように立ち上がり、従来店舗での販売が主体だった衣料品メーカーのユニクロなども、ネット販売に主力を移しつつあるのは、ネット起業家の新しいビジネスの手法が、既成の企業社会を変化させている証左である。

さて、その町田が云う「社会起業家」のポイントは、「社会サービスを事業として行い」「非営利組織をプロとして経営する」と云うところだろう。

今、従来の社会サービスとは本質的に異なった、新しいサービスの形態が提唱されている。つまり、医療、福祉、教育、環境、文化などの社会サービスの分野では、これまで「慈善事業」とか、「ボランティア」とか、「第3セクター」とか、「半官半民」とか、「行政」とか云った形態での運営が殆どだった。しかし、こうした古い社会サービスの型では、多様化し、高度化する社会のニーズに充分応えられない。そこで、「事業としての」社会サー

¹ 町田洋次(2000)「社会起業家：『よい社会』つくる人たち」東京：PHP 研究所

ビスのあり方が登場し、それを推進する「社会起業家」と云う存在がクローズアップされていると考えられる。

町田は、成功する社会起業家の条件として、以下の5つをあげている。

- (1) リーダーシップがあること
- (2) ストーリー・テラーであること、
- (3) 「人」のマネジメントができること、
- (4) 理想家でありオポチュニストであること、
- (5) アライアンス(同盟)の構築者であること

少し説明した方がよいものに絞って補足する。「ストーリー・テラー」であるとは、夢を語るができること云うことだろう。人に語れる夢があり、それを聞かせる話術があること。「オポチュニスト」であるとは、既成概念に執着せず、その場の機会を柔軟かつ機敏に捉えて実績をあげる能力を指すのだろう。鈍感ではいけない。優柔不断でもいけない。

「アライアンス」とは、行政とか民間とか、企業とか学校とか云う既成社会の枠組みを超えて、さまざまな組織やグループと、協同戦線を組む事を意味する。「社会起業家」は、広いネットワークを持ち、「イデオロギー的には、カメレオン」のように一つの政治的立場に固執せず、目的達成のためのアライアンスに多くの団体や人材を次々にまき込める人。

このような「アライアンス」構築が、些か強引な感じがするのは否めない。しかし、こうした「社会起業家」のリーダーシップが、よしとされるのは、その活動が社会的に存在意義のあるものであり、従来型のリーダーシップでは、新しい「社会サービス」の担い手となり得ないと云う認識があるからだろう。

「人」のマネジメントができること。これが一番難しいとも云えるが、NPO 内部で、理事やスタッフのやる気、根気を奮い立て、創意工夫を結集することが、「社会起業家」に求められている。

中谷彰広²は、職場での「やる気」について次のように云っている。「面白い仕事はないが、面白い目的はある。モチベーションを高めるのは、面白い目的である」(p. 106)。つまり、「社会起業家」は、理事やスタッフが面白いと思える仕事の目的を、提示することができなければならない。あるいは、理事やスタッフの中から、「面白い」目的が提案される土壌を作らなければならない。

² 中谷彰広 1998 「超管理職：『師匠』と呼ばれる上司の法則集」東京：PHP 文庫

「やりがい」とは位置付けであると、中谷は云う。今やっている仕事の、(1)自分の中での位置付け、(2)組織の中での位置付け、(3)その組織の将来における位置付け、(4)自分の将来における位置付けが、はっきりすることが、「やりがい」につながる。何のためにこの仕事をしているのかが、分からないことを、やりがいがないと云う。「社会起業家」は、人のマネジメントもできなければならないとは、共に働く人々が「やりがい」を発見できる環境を設定できると云うことでもある。

NPOの活動が日本より遥かに進んでいるアメリカでは、NPOのリーダーを育てる教育が盛んである。MNO (Master of Nonprofit Organizations)、つまり、NPO学修士号、を授与する大学まである。町田がこの本の中で紹介しているのは、オハイオ州クリ・ブランドにある Case Western Reserve University の Mandel Center for Nonprofit Organizations である。

さっそく、その大学の HP³を調べてみると、

GRADUATE PROGRAMS

Since 1987, the Mandel Center has set a high standard in graduate education for nonprofit leaders and managers. In the last thirteen years, we have developed an array of precedent-setting programs. These programs share a common purpose: to meet the persistent demand for innovative and thoughtful nonprofit leaders and managers of nonprofit organizations. We accomplish this purpose by providing our graduates with the managerial skills and knowledge to address the challenges nonprofits face in increasingly difficult social, political, and economic climates.

"innovative and thoughtful nonprofit leaders"と云う表現が何とも、アメリカ的だとも云えるし、21世紀を担うNPOのリーダーは、まさにinnovativeでthoughtfulでなければと、思いを新たにもする。

始まったばかりの e-dream-s は、21世紀に大きく羽搏くことが、期待されている。e-dream-s を担う人たちが、「社会起業家」として成長するかどうか、e-dream-s の将来を規定する。「e-dream-s は人なり」である。(Saturday, January 13, 2001)

³ <http://www.cwru.edu/mandelcenter/>

“Watch Dog”

副代表理事 中川 房代

いつものようにメールを開ける。

最近はどんどんメールの送受信数が増えてきている。書けば書く程、返信も増える訳で、またその返信を書くという拡張路線を走り続けている。

2 学期の終業式を終えて、明日から冬休みという 12 月 22 日の夜。

メールの受信箱に飛び込んできた「怒りの緊急メール」。

過激なタイトルにびっくり！ 差出人は？ 見ると井川顧問からだ！ 何か怒らせるようなこと、したっけ?? メールの中で失礼なこと、書いた?? 胸に手をあてて考えてみる。でも、これだ！ と思いついたことはないように思うのだけど... ?

ともかくもメールを開けてみる。

12 月 22 日掲載の朝日新聞朝刊の 4 コマ漫画『ののちゃん』が、添付され、「ご意見をお寄せ下さい」とある。

既に多くの会員がこの漫画を目にしていると思うが、小学校で、冬休みの宿題を出す先生に対して、児童が「さっさとヨメにいけー」と発言している、というものだ。(資料 A)

関西在住の理事、ACROSS の役員メンバーと話し、連名で、朝日新聞に「公開質問状」を提出することに決めた。(資料 B) その間、『ののちゃん』の漫画に関して約 1 週間で 10 名からの返信があり、そのコメント集を「公開質問状」の添付資料として送付した。

それを受け、1 月 4 日の理事会で、教育改革提言事業として、「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」を始めることを決定した。(資料 C) 我々が、新聞などマスコミの“watch dog”になろう、というものである。“watch dog”とは文字通り、「監視犬」。教育に関する新聞報道(全国紙を中心に)に関して、問題記事をピックアップし、意見交換し、ホームページや公開質問状などの形で意思を表明していくのである。2 月開始を目標に、準備中である。

そして、先日、朝日新聞広報室から回答が届いた。(資料 D)

この回答を読んだ時の憤りや不満、不信。そして公開質問状の回答指定日に「挑戦状」とでもいうべき内容で掲載された 1 月 10 日朝刊の同じく『ののちゃん』の漫画の発言—「おまえが去年早さっさとヨメに行けとか言うからだ。根に持つタイプとは思わなかった。」(資料 E)。

私は、「これは放ってはおけない、何とかしなければ」という思いをますます強くしている。

皆さんはどう思いますか？ ご意見、ご感想をお寄せ下さい。
朝日新聞社に対して、何らかの形での第2弾を予定しています。

<資料B> **朝日新聞社への公開質問状**

2000年12月27日

朝日新聞大阪本社編集局様

特定非営利活動法人 イー・ドリームズ
代表理事 辻 荘一
副代表理事 中川 房代
ACROSS (アクロス)
会長 河野 良子
副会長 藤澤 俊之

朝日新聞社大阪本社への公開質問状

この公開質問状は、2000年12月22日朝日新聞大阪版朝刊社会面(31面)『ののちゃん』の漫画の内容に現れている、作者いしいひさいち氏の女性への差別意識、教師という職業への現状認識のなさ・偏見に対し、抗議の意思を表明すると共に、その漫画を掲載した朝日新聞社の公共の報道機関としての責任を追求するものです。

私達は、教育と社会の連携を考え、実践する為に設立した「特定非営利活動法人 イー・ドリームズ」と、教師の質の向上をめざして研修に取り組んでいる英語教師の研修グループである「アクロス」の連名でこの文書を送ります。

私達が公開質問状を出すに至った理由は、以下の通りです。

女性教師及び教師全体に対する差別・偏見

漫画の4コマ目めで、宿題を出す女性教師に対して児童が「さっさとヨメにいけー」

e-dream-s 通信 2001.1 No.4

と発言しています。

「ヨメ」という、女性がその人格を認められない状況で使われてきた言葉を、子どもの台詞として、安易に使っていることに驚きます。宿題をたくさん出す、気に入らない教師に対して「ヨメにいけー」と言わせているのは、家事労働の蔑視であり、それを女性がするものとする偏見であり、蔑視している労働を女性がすることを当然と感じるのは、女性差別です。

私達がこの発言に問題があると考えるのは、上に述べたこと以外に、言外の意図として次の3つの考え方を含んでいるからです。

2. 宿題をたくさん出す鬼のような女性教師は早く「ヨメに行って」教師を辞めろ
3. 女性教師は「ヨメに行って」ないから「オニ」や「アクマ」のような振る舞いをする
4. 教師は女性が「腰掛け」でする程度の職業である

現在、小中高校の教師は女性が多く、その中で独身の女性教師が少なくありません。また女性教師に限らず、児童・生徒の問題行動が頻発する中、日夜頑張っている教師がたくさんいます。このような状況において、この「さっさとヨメにいけー」という発言は、日本の公教育を支えている女性教師及び教師全体に対する侮蔑的な発言であり、作者の学校教育へ現状認識のなさを露呈しています。

差別と偏見に満ちた漫画を掲載したことに対する朝日新聞の責任

このような漫画を新聞紙上に掲載することは、読者に差別を植え付け、偏見をまき散らすこと以外の何ものでもありません。

日本を代表する新聞の1つとして、多数の読者を持ち、良識ある立場をとるだけでなく、読者を啓蒙し、差別や偏見と闘うべき立場にある朝日新聞が、このような漫画を掲載したことは、一個人が同様の発言をすることとは比べものにならない、重大な失態であると考えます。

この漫画掲載の件を契機に、今後、朝日新聞社が、日本の未来のために、教育の発展のために、私達教師と真に協働できる報道機関となれることを切に願うものです。

以上の理由により、ここに公開質問状として、朝日新聞社大阪本社に対し、以下の質問に責任ある回答を求めるものです。

- 1、私達は、漫画中4コマ目の児童の発言「さっさとヨメにいけー」を女性への差別発言だと認識するが、朝日新聞社はどう考えているのか。
- 2、私達は、作者が学校教育への現状認識のないままこの漫画を描いていると考えるが、朝日新聞社はどうとらえているのか。

- 3、公の報道機関の1つである朝日新聞社が、この漫画の掲載によって読者に差別と偏見を植え付けた責任についてどう考えるか。
- 4、責任を認め、朝日新聞紙上に、「謝罪」記事を載せ、新聞社としての立場を明らかにすること。

以上4点に関して、朝日新聞社大阪本社としての責任ある回答を、文書で、2001年1月10日までに、公開質問状提出者 代表 中川房代宛に郵送することを要求します。
(送付先はこの文書の最後に記載してあります。)

尚、参考資料として、有志の意見を添付します。

以上

<資料C>

第4回理事会で決定された

教育改革提言事業「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」

今回の朝日新聞社への公開質問状送付を踏まえ、今後、教育に関する新聞(全国紙)記事や掲載内容について、報道のあり方を監視し、定期的に新聞社などに公開質問状などを送付する。

同時に e-dream-s ホームページでも意見交換の場を設ける。

目的： 「教育改革提言事業」の第一歩として位置付ける
e-dream-s の社会的位置(存在意義)を明確にする(知名度、宣伝効果も!)
会員が、自ら考え、自分の意見を明確に伝えることができるようにする

- * 具体的なやり方については後日提案。
- * 2月中旬にはスタートできるように準備を進める。

<資料D> 朝日新聞社からの回答

2001年1月9日

特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

代表理事 辻 荘一様

副代表理事 中川 房代様

ACROSS (アクロス)

会長 河野 良子様

副会長 藤澤 俊之様

朝日新聞社広報室

拝啓 いつも朝日新聞をご愛読いただきありがとうございます。昨年12月27日付でいただきました「公開質問状」を拝読いたしました。大阪本社編集局宛でしたが、ご指摘の作品の掲載は東京本社が担当しており、当室が代わってご説明させていただきます。

昨年12月22日付朝刊掲載の「ののちやん」で、子供たちと藤原先生とのやりとりについてのご指摘と承りました。この連載漫画は同じ作者によって「となりのやまだ君」の題名で登場して以来、今年の秋で満十年を迎えようとしております。この間一度も休載はなく、通算の掲載はすでに三千回を越えております。長く続いておりますのは、全国の読者のみなさまの強いご支持のお陰であると感謝しております。

さて、ご指摘の1317回の作品に登場している3年3組担任の藤原先生は連載の中でも最も人気の高いキャラクターですが、これまでに「女性教師としてあるまじき振る舞い」とのお叱りをいただく一方で、「女性であるという理由だけで課せられてきた制約を破った先生」として共感の声も多数寄せられてまいりました。作品のなかで、藤原先生と、先生が担任するクラスの子供たちとの関係は大きなテーマです。そこで展開されているのは、水平的な人間関係であります。藤原先生の“おちやめ”な人柄が子供たちに敬愛されるゆえんだと思います。また、藤原先生の動向は作中の登場人物に共通の大きな関心事となっており、縁談の話はこれまでも何度も登場しております。一日に一本だけ掲載の四コマまんがではありますが、子供たちとの間ではぐくまれたストーリーの中でのひとこまであることをご理解ください。

「さっさとヨメにいけー」との言葉は、ご指摘のように「女性差別にあたる」とお考えの向きもあるかとは思いますが、むしろ親しみを込めた「憎まれ口」であると見ていただく方が自然ではないでしょうか。厳格な父親が、結婚を望む愛娘に向かって「嫁に行ってしまう」と万感の思いで口にする言葉を、子供たちが真似て敬愛する藤原先生に向けている様子にほほ笑ましさを感じる方もいます。

「公開質問状」のなかには「宿題をたくさん出す、気に入らない教師」とのご指摘もごありますが、「宿題をたくさん出す」のは事実ですが、子供たちにとって、藤原先生が「気

に入らない教師」ではないことは、これまでの作品をご覧いただければご理解いただけるものと思います。

また、「学校教育への現状認識がない」とのお叱りもいただきました。この作品はあくまでも小学校に、舞台を借りたフィクションであり、ここで展開されるのは、多くの日本人が心のどこかで思い描いている風景であると考えています。校内暴力など学校をめぐる社会問題や時事・流行の話題を、この作品はほとんど取り上げてきていません。私どもは、むしろ、殺伐としたニュースにあふれている社会面にあって、ほっとできる空間、肩の凝らないひとときを提供できたならばと願い掲載しております。

しかしながら、そうした作品の基本的な枠組みが時として不見識であるのご批判を招くことがありうることを、今後、十分認識してまいりたいと思います。なお、弊社は教育の現状、なかでも学校現場での問題につきましては従来、高い優先順位をおいて報道してまいりました。今後もその姿勢は変わりません。また、私どもの解釈だけが正しいとは思っておりません。常に読者のみなさまからのお声に耳を澄ましてまいりたいと考えております。多様な解釈が、その作品を育て上げるのだと考えるからです。

「ののちゃん」については、これまで数多くのご意見をちょうだいしてまいりました。例えば、作中の言葉についてです。舞台となっている町は所在地が不明ですが、そこで使われている言葉には関西の雰囲気漂っております。これに対して、東日本の読者からは違和感の指摘がありますが、地域や世代によって言葉とは本来多様なものであり、そうした趣旨をお伝えしてご理解をいただいております。

長々と述べさせていただきましたが、以上から私たちの考えがご理解いただければ幸いです。ご指摘につきましては、作者に伝えると同時に、今後の掲載の参考にさせていただく考えです。ご指摘に感謝すると同時に、従来にも増して差別や偏見に対しては敏感でありたいと考えています。今後とも朝日新聞をよろしくお願いいたします。

敬具

第4回理事会

1月4日、大阪市において、第4回理事会を開催しました。昨年夏からの取り組み(事業)報告と「タイツアー」「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」「トヨタ財団への助成申請」についての提案があり、全ての議案が可決されました。詳細は以下の議事録をご覧ください。

第4回理事会 議事録(抜粋)

- 1、開催日時 2001年1月4日(木) 午後8時40分～9時40分
- 2、開催場所 ハイアット・リージェンシー・オオサカ
- 3、理事総数 12名
- 4、出席理事 11名(辻、中川、藤澤、飯田、灰田、山田、原口、阿部、志村、井出、
辻岡) ; 井川(顧問)
*オブザーバー: 河野、佐藤、稲川、山本賢
- 5、議案
第1号議案 教育支援事業「タイ弾丸ツアー」計画承認の件
第2号議案 教育改革提言事業「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」計画承認の件
第3号議案 教材開発・制作の企画、請負及び販売事業「トヨタ財団助成金

申請事業」計画承認の件
第4号議案 議事録署名人選任の件

6、議事経過および報告

<報告>

NEWS A (飯田) 発行済みのものについてはスキャン終了。目次の作成は、今後分担して作業する。8月完成予定。

ホームページ(原口) 業者よりCD-ROMが届き次第、検索サイトに載せる。ハングル版の完成近し。中国版は作成中。英語版については早急な着手が望まれる。

英国セミナー(藤澤) 理事が率先して自分たちの企画を出して貰いたい。参加申し込みは3月末締め切りをめどにする。

写真アーカイブ(辻) モンゴルの写真315枚をスキャン済み。現在は検索できる状態にしてゆこうとしている。今後ウェブ上に載せるにはプログラム作成が必要で、専門家に依頼したい。トヨタ財団より助成金が貰えるなら、それに充てたい。

<議案>

第1号議案 教育支援事業「タイ弾丸ツアー」計画承認の件 可決

第2号議案 教育改革提言事業「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」計画承認の件
可決

問題であると思われる事柄をイードリームズ内で話し合い、意見の一致があれば今後も公開質問状をおくる。単なる「文句つけ」に終わらないようにするために、「教育提言を社会的影響の甚大なもの」に行うことと、「書かれたもの」に限定して行うという共通認識を確認。また、良いと思うものについても取り上げて話し合う機会をもつ。

第3号議案 教材開発・制作の企画、請負及び販売事業「トヨタ財団助成金申請事業」計画承認の件 可決

7、議事録署名人選任の件 灰田理事、辻岡理事を選出

e-dream-s 通信 2001.1 No.7

[e-dream-s ホームページ](#)

理事 原口 恵美

ホームページのデザインが完成し、それが CD-ROM となって自宅へ送られてくることになって待つこと2週間。ようやく、手元に届きました。(宅急便のあて先に住所の町名が抜けていたため、あて先不明となっていたらしい。) さあ、いよいよ、更新作業のスタートです。

ホームページを作成したり、更新したりする時には、「Next FTP」というソフトを使用します。これは、インターネット上で販売されているソフトで、誰でも自分のコンピュータにダウンロードすることができます。私はこの時初めて、インターネットを使って買いものをしました。後日、クレジットカード会社から請求書が届きます。

さて、その「Next FTP」を立ち上げると、画面は右と左に分かれており、左側がローカルのフォルダ、右側がホストのフォルダになっています。ローカルとは、自分の手元にある、ホームページの情報の詰まったフォルダ、ホストとは、ホームページ上にあるホームページの情報の詰まったフォルダです。簡単に言えば、左側で作成したものを右側に移動させることで、インターネット上のホームページが作成・更新されていくのです。と言えば簡単そうなのですが、実際はホームページを1ページ作るのは、結構大変な作業です。業者に作成してもらったファイルを開いてみると、難しそう記号や文字が並んでいます。ただし、私が更新作業をするところは、ちゃんとわかるように書かれていて、そこを新しく書き換えるだけで出来るようになっていきます。ただし、慣れるには時間が少しかかりそうです。

早速、トップのメッセージを書き換えようとしたのですが、どのファイルにあるのか、探すことができませんでした。ううむ、前途多難。一度は、講習を受けて教えてもらったはずが、その前段階でわからない状態です。やはり、実際にやってみるまでは、自分が「どこがわからないのかもわからない」なのでしょう。でも、わからないことは何でも聞いて調べて、自分のものにしていかなければなりません。早速、わからないことをメールで相談することにしました。

次回には、「もう、バッチリです。」と言えるようにがんばります。ただし、掲示板だけはどんどん新しいメッセージが寄せられています。まめにチェックして、みなさんもどんどん、参加してください。

CD-ROM プロジェクト現状報告

理事 飯田 佐恵 / 監事 丸野 有利子

‘NEWS A’の CD-ROM 化の前段階作業のスキャニングは私の分担したものは完了しましたが、

丸野さんの分が今少し残っているので、目下スキニングの毎日だそうです。

11月号でお願いしましたが、次の作業の目次作りの協力者を求めています。'NEWS A'の各号について通し番号、執筆者名、タイトル、サブタイトル、内容、キーワードの一覧を Microsoft EXCEL を使って作成します。私の持ち分だけでも738部あり、Microsoft

EXCEL を今回初めて使う私には時間がかかり、去年の暮れから始めて昨日まででたった84部しか表に打ち込んでいません。まだ慣れていないせいかも知れませんが、昨日は2時間、2時間の計4時間で12部でした。内容とキーワードを考えるのに原稿を読み直さなければなりません。そして時には Zip に取り込んだものとの照合が必要です。

ACROSS 初級、中級、上級の訓練中のみなさん、冬合宿が終わって次の段階へのスタートの時、今、読めば役立つことがいっぱい掲載されています。「人を助けてあなたも豊かになる」しごとにご協力を切にお願いします。

時間とお金の節約のために、勝手だと思いますが

*メール送信できる方

* Microsoft EXCEL を使える方

にお願いしたいと思います。

2001年1月12日

(文責 飯田)

e-dream-s 通信 2001.1 No.8

タイ・チェンマイ・弾丸(ブーメラン)ツアー

1月26日からのタイ・ツアーには、e-dream-s 会員8名で参加することになりました。

大阪:井川 好二、辻 荘一、灰田 穰、飯田 佐恵、河野 良子、中川 房代
東京:岡田 かおる
広島:山本貴子

現在、チェンマイのシントロン氏と連絡をとりながら、準備を進めているところです。
プログラムとして、

1. The San Pa Yang Governmental School(Mae Tang 村)学校訪問
2. The Prince Royal's College(シントロン氏の勤務校)訪問
3. Chiang Mai Vocational College の先生方との meeting
- 4.ホームステイ

を予定しており、盛り沢山です。

2泊3日という超短期間ですが、実り多いツアーにしていきたいと思っています。
e-dream-s2月号に報告を載せる予定ですので、乞う御期待！

「タイへ行くぞー！」

理事 山本貴子

皆さま、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

私は、1月26日からの「タイ、ブーメランツアー」に参加します。去年の夏、初めてのアジアツアー、モンゴルの旅に参加し、普段の生活では味わうことのできない貴重な体験をしました。

私にとって第2回目のアジアはタイです。タイに関して、今知っていることと言えば、ディカプリオ主演の映画「ザ・ビーチ」の撮影場所になったのがピピ島で、観光客が爆発的に増えているということ。タイは仏教国ということ。現在のチェンマイは北部タイ第1の都市で、人口16万人。(これは調べました)といったことくらいです。これから、いろいろ調べてみるつもりです。そして、自分の目で実際のタイを見て、皆さまにも報告したいと思います。ホームステイについてもとても楽しみにしています。「よしっ。タイでの2泊3日は、5感をフルに使って有意義に過ごして来るぞ！」

<タイ・チェンマイ弾丸ツアー>

日時:2001年1月26日(金)~28日(日)2泊3日

旅程:1/26(金) 関空 01:25 -- バンコク 05:50 TG 627
バンコク 08:15 -- チェンマイ 09:25 TG 102(直行便)

The San Pa Yang Governmental School(Mae Tang 村)学校訪問(昼食)
The Prince Royal's College(シントロン氏の勤務校)訪問
ホームステイへ出発

—チェンマイ泊(ホームステイ)—

1/27(土)

朝、ホテルへ

午前:discussion

午後:観光

Chiang Mai Vocational College の先生方との夕食会

—チェンマイ泊(チェンマイ プラザ ホテル)—

1/28(日) チェンマイ 07:00 -- バンコク 08:10 TG 125
バンコク 11:10 -- 関空 21:00 TG 620(マニラ経由)

日本に関する図書の情報、本の提供のお願い

1日めに訪問する The San Pa Yang Governmental School では、学校の図書館に日本に関する図書を集めたいという希望があるそうです。そこで、訪問時にお土産として、日本に関する本を持って行きたいと思います。

「英語」で書かれた本で、できたら写真の多いものがよいのでは、と思います。こんな本があるよ、という情報、また提供して下さる本をお待ちしています。

連絡先:中川まで

e-dream-s 通信 2001.1 No.9

21世紀の始まりにあたって

理事 山田昌子

幼い頃「未来の、輝く21世紀」と遠い21世紀に夢を見ていた、その21世紀がスター

トした。が、相変わらず茶の間のテレビは、暗いニュースを伝えている。16、17歳少女タクシー強盗殺人事件、一家殺傷事件、筋弛緩剤点滴事件、乳児誘拐事件・・・。

雑誌「アエラ」2001年第1号に、癌が進行してしまった患者のための終末期医療に取り組んで30年、が、1年前、自分自身が胃がんになった医師の記事が載っていた。この河野博臣（ひろおみ）医師は、次のように語っている：

「自分が患者になってわかったこと、いろいろありますね。特に告知の問題は、自分がその身にならないと、患者の繊細で敏感な心理のゆれ動きというのは、わかりません。内視鏡を胃に入れてモニターのテレビを見てみると、幽門の上のところに大きいのが見えたんです。医者は無造作に『やっぱりありますね』と。こちらの気持ちはすごく複雑なのですが、医者はそういう時でも、まるで研究データを確認するような無味乾燥な口調で言うんだなあ、自分が患者さんに告知した時はどうだったろうかと考えました。」

この部分を読んだ時、最近の私の経験と多少重複するところがあり、何度も読み返してしまった。昨年末、定期検診でひっかかり、国立病院に行った時のことだ。「大丈夫ですよ。問題ありません」という言葉を期待していたけれど、意に反して、内診で医者に言われたー「子宮に大きな固まりがありますね・・・赤ん坊の頭くらいの大きさですね。胃のところまで来ていますよ・・・悪性であれば、生命失いますよ。」「え・・・。」これを聞いた時、頭の中で「大きな固まり」、「赤ん坊の大きさ」、「悪性」、「死」という言葉がぐるぐるまわり始めた。頭がぼーとして、血の気が引いていくのが分かった。手も足も冷たくなっていくのが分かった。その後の医者のことばを聞き、それを理解するだけで精一杯だった。「じたばたしても始まらない！落ち着け！」と別の冷静な頭が、呼び掛けているけれど、やはり、「どうしよう・・・。」と、パニックになっている自分がいた。別の私は、「ほんま昌子は気が小さいんだから。小心者め！」と叫んでいた。でも、やっぱり、その医者や近くにいた看護婦さんにも聞こえるくらい、心臓がドキドキしていた。しばらくして医者が、「まあ、生命だけは大丈夫でしょう。」と言った時、「ほ、ほんとう、ですかあ・・・。」と、無意識に、声にならない安堵の声が出た。

結果を言えば、子宮筋腫。医者によると、40歳台の女性の30%がかかり、手術前後1週間の入院だからそんなに心配することはない。手術までは、普通の生活をおくってもいいよと言われ、「やったあ！」と心の中で叫んだ。だから、患者としての私の場合は、告知ではなく、ほんの数分の出来事だった。が、一生忘れられない気がする。医者としては、別に間違ったことを言われたとは思わない。まるで研究データを確認するかのような無味乾燥な口調というわけでもなかった。が、ベストだったとも思わない。

私は、自分に置き換えてみた。私は、教員として、生徒に対してどうだろうと思った。癌の告知とまではいなくても、生徒の繊細で敏感な心理のゆれ動きというのを本当には理解できないまでも、ベストを尽くせているのだろうか。「生きる意欲」を本当に大切にしてきたのだろうか。

河野博臣医師の言葉は重い。メスさばきの腕をあげるにつれて、臓器ばかり見て、患者の心を見ていなかった自分に気づいた、そして10年、患者の心を理解するには自分自身の心の中を見つめ直さなければと教育分析をしてきた（ACROSSのスピーチ訓練みたい?!）。その上、がんで胃を切除、「最後になって神がお前もがん患者になって、真に患者体験をしろと言っているように受けとめています。」新世紀の始めにあたり、この厳しい言葉は、私の身をひきしめてくれたような気がする。厳しい21世紀の現状だからこそ、大切にすることがあるのだと思う。

参考： 「現代の肖像 医師 河野博臣」, Asahi Shimbun Weekly AERA 2001. 1. 1-8, p.66
- 77

e-dream-s が新聞で紹介されました

昨年 11 月山田理事と中川副代表理事が、そして先日辻代表理事と中川副代表理事が e-dream-s についての取材を受け、それが記事として、新聞で紹介されました。

既に昨年、京都新聞、朝日新聞京都版に、モンゴルツアーとモンゴル報告集出版の記事が掲載されましたが、今回の朝日新聞では、教師が中心になって、社会に貢献すべく NPO を設立したという e-dream-s の設立趣旨が中心に書かれています。

これを武器に、自ら e-dream-s について語り、家族や自分の周りにいる人たちの理解を深めていきましょう。また新たな会員を増やしていきましょう。

* 新聞記事は、No.14 に載せてあります。

e-dream-s 通信 2001.1 No.10

新聞記事より

No.11

左：時流・自論 考え直せ NPO 税制（朝日新聞 12/20, 2000）

右：2001年度 税・予算 Q&A NPO 寄付優遇

(日本経済新聞 12/17, 2000)

No.12

上：NPO 多彩 全国から視線 (日本経済新聞 1/12, 2001)

下：NPO 支援の拠点 (読売新聞 1/6, 2001)

No.13

左：人権擁護審議会まとめに関する日本新聞協会の意見書要旨

(日本経済新聞、朝日新聞 1/12, 2001)

右：「指導力不足」の小中高教員 4都県が研修制度

(朝日新聞 12/27, 2000)

No.14

<イー・ドリームズの紹介>

先生の輪 NPO に 校外海外で 役立ちたい

(朝日新聞 1/15, 2001)

e-dream-s 通信 2001.1 No.11

e-dream-s 通信 2001.1 No.12

e-dream-s 通信 2001.1 No.13

< タイ弾丸ツアーに向けて >

1 月末の e-dream-s 主催「タイ弾丸ツアー」に先駆けて、昨年末、山田理事と丸野監事がタイに行ってきました。「弾丸ツアー」参加者へのアドバイスになると共に、参加しない会員にとっても、タイの社会や生活を理解する教材になると思い、急遽掲載することにしました。

タイ旅行覚え書き

監事 丸野 有利子

<両替編>

だいたい1 パーツ=2.5 円。航空会社のチェックインカウンター付近で、円をドルに両替しておこうかそこら辺の銀行の一つに行くと、タイのパーツにも両替できることが分かる。職員の方が気さくだったので助言を求めたら、取りあえず少しだけパーツに替えてあとは円で持っていれば、と言われたので、一万円だけパーツに両替しておいた。

その直後に合流したタイ通のK先生、「バンコクの空港の方がレート良かったのに！」(といっても1万円につき500円くらいの差だが)

チェンマイ空港でも両替した。いくつも両替所があるので二人で適当に分かれて両替したら、山田さんの方がレートが高かった！張り出してあるレート表をよくよく見ると、両替所(つまり各銀行)によって通貨ごとにレートが微妙に違っていたのだった(といっても数十円の差だが)

K先生によれば、空港内が一番レートが良くて、ホテルでの両替はレートが悪いとのことだ。

余ったパーツは最後にバンコク空港内にたくさんある売店で、パーツ+日本円(コインもOK)で使い切ることができる。

K先生にそそのかされて入ったバンコクの美容院で、シャンプー+ヘアカット+セットの他に、思い切って生まれて初めてマニキュア+ペディキュアまでしてもらったら、合計400パーツ、約1,000円だった。ヘアスタイルは女優やモデルの写真集から指定することになっていたが、私は羽田美智子を選んだ。ロリアルサロンだったから一流の方だと思うが、ヘアカットでは私のくせ毛を大胆に切りまくり、セットした時点はすばらしかったが、その後はハリネズミのようにツンツンになっている。やはりK先生に誘われてタイへ来たH先生(中年?の男性教師)は初めてヘアダイをしてもらい、見違えるように若返ったが、その後の髪の状態が心配だ。

<ホームステイ編>

泊めていただいたお宅はどちらもバスはシャワーだけだった。お湯の出方が不安定で、ときどき水になってプルプル。タオル、シャンプーは持参したものを使った。寝るときはお互いいびきを心配しつつダブルベッドでいっしょに寝た。窓は網戸になっていたのを閉めないで

e-dream-s 通信 2001.1 No.15

寝たら、朝方とても冷え込んだ。寝間着も長袖でちょうど良かった。また、どちらのお宅でも玄関で靴を脱いであがった。

<衣服編>

チェンマイでは12月~1月の平均気温は21 くらいとなっているが、私たちが訪れた時には、昼間は薄いジャケット、朝晩はウィンドブレーカーかもう少し厚めのジャケットが必要な涼しさで、異常気象だとシントロンさんは言っていた。でも日差しは強くて、チェンマイの高台に

あるワット・プラタート・ドイ・ステーブ(金色の仏塔と街を見下ろす眺望で有名)では帽子が欲しいほどだった。

お寺はどこでも下足を脱ぎ、ミニスカートや短パンの人は腰巻きのようなものを付けさせられていた。山田さんはその腰巻きを「私も付けたいな～」とうらやましがっていた。

古い旅行用スリッパを持っていったが、飛行機、ホテル、ホームステイ先で便利だった。

靴は、歩きやすいウォーキングシューズで行ったが、それでもシントロンさんの所有地である半開拓地はとでもデコボコで、足の裏にマメができてしまった。山田さんはおなじみのサンダル姿で平気そうだったが、一般にはサンダルはきついだらう。

<食事編>

辛いもの大好きな山田さんはもうタイ料理大歓迎。主な目的はそれではないか、と思えるほどウキウキしえた。一方私は辛いものが大の苦手で、出発前に中川さんが心配して、日本食を持っていけば、と言ってくれるほどだった。でも今回も韓国ツアーと同様、とにかくチャレンジしてみたら、カーオ・パット(チャーハン)、トート・マン・プラークライ(タイ風さつまあげ)、ソムタム(熟していないパパイヤを使ったサラダ)などとても美味しく食べられるメニューがあった。麺料理もパクチーを取り除けば大丈夫だった(パクチー--独特の香りの青菜で薬味に使われる--の味はかなり強く、K先生もこれが苦手な料理から取り除いていた)。また、あの辛いトムヤムクンなどとてもないと思っていたが、本場のトムヤムクンはそれほど辛くなくて実に深みのある味で、けっこう美味しくいただけた。もともと好物のココナッツアイスクリームはさすが本場、果肉まで入っていて絶品だった。

ホテルの朝食バイキングや屋台でよく見かける赤っぽい色のジュースはたぶんパパイヤジュースだと思うが、とてもフルーツとは思えない変わった味だと思った。お試しを。生のランブータンはとても美味しかった。

空港内のバーガー・キングで食べたハンバーガーは国際料金。つまりタイでは高価だった。

<ショッピング編>

チェンマイのナイトバザールはプラザホテルのすぐそば。3層構造で道の両側に伸びていて、メチャメチャ広く何でも売っている。一般に売値は高めなので、値切るのが常識のようだ。私がお土産用に欲しかったタイシルクのポケットティッシュケースはなかった。(これはバンコク国際空港内にたくさん売っていた。ただし1個147バーツ=360円ほどで高かった。)もっと探せばあったかもしれない。とにかく時間がいくらあっても足りないくらいの広さ。山田さんは民俗調のジャケットを2枚、どっちにしようか迷ったあげく、値切って2枚とも買っていた。

タイシルクの衣類(シャツ、パジャマ、ジャケットなど)はバンコク空港内にはあまり品揃えが多くなかった。町の専門店の方が良いと思う。チェンマイのタイシルク専門店PIANKUSOL Lp.(Chaingmai Textile and Garment Center)で、Vocational Collegeの先生の口利きで3割引で買ったタイシルクのブラウスは、日本円で2,800円くらいだったが、全般に柄、デザインが派手すぎるような気がした(ただし私はファッション音痴)。

<お土産編>

日本土産は関西空港の三階に良いお店があって、ほとんど何でも買えた（出国手続きをする前）。「東京」「一番」といった文字のTシャツまであった。

私たちからシントロンさん宅とチャチャバルさん宅(ホームステイ先)へのお土産は、資生堂のトラベル用化粧品セット(奥様へ)、日本酒とサントリーウィスキー「ロイヤル」(でも、シントロンさんはお酒はほとんど飲まない方だった。ワインは最近飲むようになったとか。)、富士山の絵と「一番」の文字入りのTシャツ。鏡の裏側に西陣風の生地を貼った手鏡。日本風の扇子、和紙の人形しおりなど。すべて関西空港で調達した。

シントロンさんは日本食いきで、カレー(S&Bのファン)と乾燥ワカメは一年分ストックしてあるとのこと(日本へ行った時に自分で買ったり、訊ねてくる友人に頼んで持ってきてもらうとか)。朝食に出して下さった美味しいワンタンヌードルにもワカメが入っていた。シントロンさんは脂肪の摂りすぎに注意するよう医者から言われているそうだ。ハイパー何とかと説明してくれたが、知らない英語で・・・。

私は国内便乗り継ぎのために関空でかなり時間をつぶす必要があったが、三階にある「ロイヤル・カフェテリア」は広くて、テーブルも大きく、仕事をしながら長時間ねばることができた。

<ことば編>

ホテル、ショッピング、ホームステイ先では英語でだいたい大丈夫だと思う。英語の小さい辞書と、タイ語しか通じない場面にそなえてタイ語の会話集もあると便利だろう。

<帰国編>

バンコクからの帰国のフライトでとくに注意!!! マニラでトランジットの時、座席(ポケットも含め)には何も残さないように、というアナウンスを聞き漏らし、大事な書類を入れたままにしておいたら、戻ったとききれいに片づけられていた。「ものすごく大事な仕事の書類なのに!」と大騒ぎしたけど、「ゴミとして処分してしまったので、もう探せません」と言われガックリ。ところがラッキーにもすぐ後ろの座席に置いてあることがわかり(清掃のときに捨

e-dream-s 通信 2001.1 No.16

ててはまずいと取りのけておいてくれたらしい)奇跡的に取り戻せた。(実はこのあと羽田空港でもこの書類の入ったリュックをトイレに置き忘れ、これもラッキーにも落とし物センターにぶじ届けられた。韓国ツアー以来、マルノというのが忘れ物の代名詞になっている。)

ところで、マニラのトランジット客用待合所は小さな売店とドリンクスタンドのみ(このコーヒーはまずかった)。電話はフィリピンコインと現地テレホンカード、特定のクレジットカード(VISAなどおなじみのは不可)のみだったが、KDDのスーパーワールドカードだと可能かもしれない。KDDのスーパーワールドカードはコレクトコール用プリペイドカードなので、ホテルの部屋からでもホームステイ先からでもお金なしで日本へ電話できる。3,000円のを1

枚買っておくと便利。残ったら国内電話にも使える。ただ、ホテルではコレクトコールでも手数料が 21 バーツ (60 円ほど) かかった。

関西空港から遠い人にとくに注意!!! 帰国便は遅れることがある。私たちもみなさんと同じ 21 時着のスケジュールだったが、出発が 1 時間おくれたため、関空に着いたときは 22 時を回っていた。羽田行き最終便は 21 時 45 分だった (時期によってスケジュールが違うので、ご確認を) のでもう間に合わなかった。泊まるホテルを紹介してもらおうと、まだ開いていた国内便出発ロビー案内所に行くと、そこでもらえるチラシを持っていけば周辺ホテルが軒並み半額料金になる「深夜 KAK プラン」(KKA かも?) というのを教えてもらい、私は空港直結のデラックスなホテル日航にこれを利用して 12,000 円 ほどで泊まることができた。

< 荷物編 >

荷物は手荷物のみにした方が良いということで、山田さんは HAW の時に買った濃紺のキャリーバッグ (いつも六甲合宿に持ってくるのお馴染みのもの。あのサイズを思い描きましょう) にしたら、チェックインの時には OK だったのに、飛行機に乗り込む直前に取り上げられてしまった。タイ航空は厳しいようだ。私は手提げの旅行バッグ、少し大きめのリュック、ハンドバック用の小さいショルダーの 3 個 (+ お土産を入れたビニールバッグ) にしたら、OK だった。ナイフ類 (キャンプ用の小さなナイフのついたサバイバルセットも) は手荷物に入れないように気を付けよう。

荷物には名札を付けておこう。私は名札をつけなかったばかりに、羽田空港で置き忘れたリュックが手元にもどるまで時間がかかってしまった。

< その他 >

自分の名刺 (英語表記入り) は必要だろう。自己紹介用のマイ・アルバムもあると、ホストファミリーとの会話にとっても役立つ。山田さんは生後間もない赤ちゃんの頃の写真や着物で三味線姿の写真を、私は自分自身や親戚の結婚式の写真、住んでいるマンションの写真なども入れたアルバムを持参した。また、どちらのホームステイ先でもアルバムをどっさり用意して待っておられた。